

奄美市世界自然遺産活用プラットフォーム令和6年度公民連携会議【第3回】 会議録

- 日時：令和7年2月26日(水)13:30～15:30
- 場所：奄美市役所5階大会議室
- 本日のスケジュール

令和6年度第3回公民連携会議 タイムスケジュール

資料2

13:30	事務局説明(出欠状況、本日のタイムスケジュール)
13:35	【議事1】第2回会議の振り返り(15分)
13:50	【議事2】提言まとめ及び提言書案の確認(40分)
14:30	メンバーあいさつ(20分) ・コアメンバー14名
14:40	
14:50	休憩(10分)
15:00	【市長への報告・提言】 奄美市長への提言書手交(座長及びコアメンバー)
15:10	市長あいさつ
15:20	取材対応
15:30	

“ありがたい姿”の考え方を統一
**誰もが訪れたいくなる島、
 いつまでも暮らしたい島**

(奄美大島中長期観光戦略2022-2026)
 (一般社団法人あまみ大島観光物産連盟作成)

を軸に対話を重ねた本会、いよいよ最終回です!

●冒頭で本日代理出席された近藤さん、境田さんにご挨拶いただきました。

●提言書の素案をご確認いただき、ご意見をいただきました。最適な表現や不可欠な視点についてご助言いただきました!!(詳細は後ほど)

●全3回の感想を皆さんにお話ししていただきました。

●提言書の手交を経て、市長あいさつをもって終了しました。

(馬場座長の「大島細姿が素敵すぎたのはここだけの話…☆」)



● 提言書案へのご意見①



コアメンバーからの意見	座長コメント	座長と事務局の対応
<p>「関係性」という言葉は少し学術的な感じがするので、例えば“つながり”などの柔らかい表現がよいのではないか。</p>	<p>市民の皆様との関係性を重視している本会議としてはご指摘のとおり変更するほうがふさわしいので取り入れる方向で検討。</p>	<p>“つながり”という伝わりやすく素敵な表現に変更しました。</p>
<p>本提言は奄美市長へのものであることは理解しているが、世界自然遺産は行政の枠を超えることなので、自治体の枠組みを超えた広域的な視点に立った観光地づくりとして奄美市がリーダーシップをとっていくことを盛り込められればよいのでは。</p>	<p>遺産地域を共有する他自治体は環境保全や観光政策において協調しあう仲間であり、かつ来訪者になる可能性がある存在として組み込める余地はあると感じた。</p>	<p>自治体の枠に囚われ過ぎていたと気づかせていただきました。広い視点からの書きぶりに改めました。</p>
<p>ルール作りはまず地元の方が納得しないといけないので“地元の地域の方が主体となったルール作り”などと付け加えてみては。</p>	<p>行政主導よりは内発的、つまり地域の主体性をもう少し色濃くしたほうがいいという意見に同意。</p>	<p>最も重要なことなので丁寧に記載しました。</p>
<p>マーケティングの思考において「転換を図る」という強い表現が使われているが、プロダクトアウトの視点も大切ということが伝わる書きぶりがよい。</p>	<p>プロダクトアウトとマーケットインの両方の視点が重要であり、今後顧客価値を重視することは重要なキーワードであると伝わる書きぶりにする。</p>	<p>両方の視点を取り入れていけるよう記載を変更しました。</p>
<p>提言を分ける必要があるのか。カタカナや難しい表現が多く読みにくい印象。またキーワード同士が対峙しているように感じる。例えば“奄美市民”と“観光従事者”は対義ではなく協力し合っていくもの。強調しすぎると壁ができてしまうのでは。</p>	<p>世界自然遺産に関わる人々は多岐にわたることを定義し、提言の抽象度を上げて懸念される軋轢を回避し誰もが読みやすい易しい表現にできればと考える。</p>	<p>読みやすくなあれ、とイチから再考するきっかけをいただきました。改善されているとうれしいです。</p>

● 提言書案へのご意見②



コアメンバーからの意見	座長コメント	座長と事務局の対応
<p>「保全」をきちんとしながら「観光」において活用するというこの相反することを実行するにあたってはまず「保全」がきちんとされないとは本末転倒となり、元々の資源がなくなり誰も来なくなる。「保全」することは全ての方々に恩恵があることをいかにその地域のすべての方々に認識していただくかが重要。</p>	<p>市民の方々へ展開される際にわかりづらいのではとの懸念は納得するところ。提言の粒度を上げてわかりやすい表現を検討する。</p>	<p>提言の前文及び提言内容にエッセンスをふんだんに盛り込みました。多くの方に伝わると思います。</p>
<p>お客さんがたくさん来て慌ただしく観光するようなものではなく、人数制限をかけてスローに観光し、ゆっくり好きになってもらい、やがてリピーターになっていただくという長い目で見ての観光資源としての価値について“スロー”という表現を入れてみては。</p>	<p>提言書の内容をわかりやすく解説していただいた。表現については今一度検討する。</p>	<p>観光マーケティング戦略やリピーターとの信頼関係のところで内容について記載しました。</p>
<p>提言の中でマイナスの言葉が使用されている。会議の中でこうした表現があったのは承知しているが、提言書の中にふさわしい表現なのか疑問である。</p>	<p>ご指摘のとおり共感するところ。フラットな表現に変更する。</p>	<p>直ちに一切を排除して猛省しました。</p>
<p>奄美市の観光ではなく“奄美観光”と表現しながら対象を“奄美市民”に限定されているなど表現にばらつきがあり、さらに固い印象。“奄美の観光”“奄美の人たち”などやわらかい表現で関係者を包含するほうがよいのでは。</p>	<p>今回の協議は自治体を越えた“奄美の”または“世界自然遺産の”という広い領域。ご指摘に賛同する。</p>	<p>“奄美の観光”と、この後の展開で皆さんから提案された“シマッチュ”に統一しました。</p>
<p>奄美の観光においてはシンボリックな見せ場はないが、奄美の人々は何もない中からあるものを全て出しておもてなししてきた。そういう目には見えない文化とおもてなしの心は大きな財産であり魅力。重要なので掘り下げて表現してはいかかがか。</p>	<p>「自然」「人」そこから織りなす「文化」をわかりやすく表現することは皆さんのお話と共通する内容なので、最大限反映する。</p>	<p>提言書のいたるところにエッセンスを散りばめました。シマッチュの誇りが表現できていたらうれしいです。</p>

- 最後にコアメンバーの皆さんからのごあいさつと、アドバイザーである岩浅先生からのコメントをいただきました。(提言書へのご意見の中であった重要なお話も含めて記載しています。)

この会に参加できたことは私にとってとても勉強になりました。

世界自然遺産とのつながりや、自然とのつながり、文化のつながり、人とのつながりなど、あらゆるつながりを大事にしてきたのが奄美だと思います。本提言は今後そういうつながりを大事にしながらさらに広い視点での関係性の構築につながっていくものかなと思っています。

県の立場では鹿児島県は2つの世界自然遺産がある唯一の県としてPRをしており、それをどう生かすかということ常々知事も申しておりますが、世界自然遺産の活用は地域の方々が主体となって考えることが大事で、それに行政が様々なお手伝いができればと思います。今回の提言を奄美市さんのほうで具体的な施策に落としこみ、それを県がバックアップするというような奄美モデルを構築し、世界へ発信できたらと期待しております。



廻さん
(行政)



恵さん
(商工)

私どものほうではこの世界自然遺産に付加価値をつけて、観光従事者の方への賃金に反映する、そしてそれがさらに質の高い観光につながるという思いがあったので、最初からそういった話をさせていただきました。先ほど中岡さんからあったように、観光従事者だけでなく奄美大島に住んでいる私たちみんなが世界自然遺産の価値を理解し保全の重要性を心に留められるよう勉強して質の高い観光を実践して、そしてまた世界自然遺産を保全していくのが本当に大事だなと思いました。今回のこの提言書の中にも盛り込まれて繋がっているなど感じました。やはりその利用ルールや人数制限で質の高い観光ツアーなどができ、それが保全に繋がっていくと思いましたので、私としてはこの提言書は今日皆さんから色々ご意見ありましたのを踏まえていただいて、それを市長への提言とさせていただけたらと思います。参加できてよかったです。ありがとうございます。

皆さんのご意見は**固い表現や嫌悪感のある言葉をなくし、言葉の語源の表現の仕方に工夫を**という内容だったかと思います。「誰もが訪れたい島、いつまでも暮らしたい島」というテーマも柔らかくてわかりやすいので、この提言も例えば**“奄美市民”を“シマツチュ”と表現する**などくだけでもいいのではないかなと。**難しい表現よりもみんなにわかりやすい文言に変えていく**と理解しやすいかなと思います。

この島に残っているものを将来もずっと残していくためにどうするかというのが一番大事だと思います。私はガイドをする際、まず島の起源からの話をします。ただ植物の説明をするだけなんてことはしません。その起源が日本本土や屋久島などと奄美はここが違うという話から始めて、だからここに固有種が多いのだ、などと伝えますと感動が生まれてきます。もちろんガイドへのレクチャーなども大事ですが、これから先は子どもに伝えていくことが重要と思います。私は小学校の地域生涯学習等でマングローブや金作原の案内・勉強会をやっています。**ガイドや行政、教育機関が連携して小学校・中学校の若年の時にこそこの奄美がこれだけ素晴らしい**ということを伝えていかないと。大人になってからしても遅くはないが、大人と子どもでは感じ方が違う。**ガイド協会の協力のもとガイドのボランティアを活用しながら生涯学習の一環として学校教育の中で子供達の認識を深める活動ができた**らと思います。なぜそういうことをするかというと、やはり世界自然遺産の元になる「保全」のためです。その資源がなくならないように**保全することでホテル、屋仁川の飲食店、多種多様な業種の事業者の方々、そして地域の皆さんへ何らかの形で恩恵がある**と思います。そのようなシステムを作っていくのもこの提言書の中に盛り込んでいただきたいですね。

久留さんがよくスローフードに取り組んでおられますが、他の先進地で見られるお客さんがたくさん来て慌ただしく観光するようなものではなく、人数制限をかけてゆっくりスローに観光してほしいですね。僕も観光案内はスローでやっています。**ゆっくり好きになっていただいて、そしてリピーターになっていただく**というのが長い目で見ての観光資源としての価値を高めるためにもよいかと思います。そして他との差別化にはスローで高金額のガイドもいいと思います。その中から**地元の集落など地域へいろんな貢献ができる**ように仕組みを整えていければいいかなと思います。



中岡さん
(観光業)



久留さん
(住民代表)

市民、来訪者、観光事業に従事者はみんな人ですから大きな括りで「人」と「世界自然遺産」ということになると思います。そして、奄美には文化があります。つまり**自然の中で生き抜く力や自然と関わりの深い年中行事など文化**も観光の大きな目玉になります。そしてもっとあるのが**おもてなしの心**。私は以前ある自治体におもてなしの講演でお招きいただいたことがあり、夜はどこで何を食べさせてもらえるのだろうとすごく楽しみにしていたところ、期待とは少し違って、そこでのお料理で驚いたのは、あまり手が加わってないといいますか、コースとかではなくて多分普通のごはんだったのです。私はそこに命を懸けているのに、これでいいのかって。そういう主旨の講演だったというのもあってなおさらそう感じました。そのときにやはり**奄美にはシンボリックなものはないけれど、一生懸命もてなす心はどこにも負けませんって確信**しました。奄美は観光において屋久島の縄文杉のようなわかりやすい見せ場のようなものはないですが、奄美の人々は本当に何も無い中からあるものを全て出してもてなしてきました。**おもてなしの心は私たちのDNAに入っています**から、そういう文化とおもてなしの心というのは目には見えないが、大きな財産だと思います。「樹木」「山」のようにシンボルが形としてあるわけではないけれど、例えば**踊ったり唄ったり**というものも確かにそこにある。また**イジュンゴやカミミチ**など民俗学は**自然と神と人との交流**の学問です。そこにはシャーマンもいます。今まさに求められている**アニミズム**です。その宝庫が奄美なので、そういう文化の側面も魅力としてあります。

また、田中一村はなぜ19年奄美で描き続けることができたのかという講演を聞いたことがあります。やはりそこに人がいたからだと思います。**奄美ってまるごとミュージアム、どこを切り取ってもミュージアム**だと思うんです。文化があって、自然があって、だから奄美全体を大きな括りで捉えた提言書にするのもいいかなと思いました。

この提言は奄美市長へ手交するので奄美市のことになると思います。しかし、**奄美市として奄美大島の観光をこのように見据えるという奄美大島の観光の具体的な考え方を打ち出すのであれば、“市民”等限定的な表現ではなく、「奄美の観光」を広い意味で捉えた表現が適切**と思いました。

今回皆さんからいただいたさまざまな観光に対する提言は業務において非常に参考になります。これを仕事に活用させていただきます。こうした施策の説明においても今回の資料を参考にさせていただきたいと思います。



麻井さん
(行政)



境田さん
(行政)

屋久島は縄文杉というひとつのシンボルがあるのでわかりやすいですが、奄美は生物多様性と言ってもお客さんはピンとこないのが現状です。国立公園のブランドメッセージは“その自然には、物語がある。”です。ストーリーを語らないとお客様に満足していただけないし、それを語るのは「人」です。やはり高付加価値というのは「人」なのです。

先日モニターツアーを行った際に、ナイトツアーではウサギが見られなかったことをガイドさんが「残念でした」と言いました。その一言で参加者の皆さんはがっかりしてしまい、高い満足度は得られませんでした。「見られなかったから残念」ではなく、見られなかったけどもクロウサギを通して奄美大島・徳之島の成り立ちなど、ストーリーを語ってくれたら結果は違っていたかもしれません。同じモニターツアーでも、金作原は中岡さんが案内してくださり、植物だけではなくその背景などまさにストーリーを語ってくださったため非常に満足度が高かったという結果になりました。

あまみ大島観光物産連盟さんの観光戦略の目指すゴールであります「誰もが訪れたい島いつまでも暮らしたい島」とてもいいですね。私もこうあるべき姿だと思っている1人です。これを考える時に奄美ではこの“コミュニティ”が重要です。生物の多様性が評価されていますが、人の多様性も輝いているのが奄美だと思っています。この提言書の中に“コミュニティ”という言葉は必要かなと思います。

そして「いつまでも暮らしたい島」については、暮らしには自然環境もありますが、住民の暮らし、生活環境があります。奄美はとうとがなし文化とも言える、山も海もハブも神様と自然を畏れ敬うという精神があります。こういった精神に触れることも満足度を上げることのひとつではないでしょうか。いかに地域の方がそういった思いで歴史や島の成り立ちを伝えるか。ガイドツアーやアクティビティの中にどう組み込むのか。

環境省では保護と利用の好循環のために社会経済や環境的な立場から自然体験コンテンツガイドラインを作って満足度をいかに高めるかに取り組んでいます。保全するのも人、利用して壊すのもまた人、です。こうした側面からもインタープリテーション技術の向上は重要だと思います。また、先ほど麻井部長がおっしゃったように、来訪者は「奄美大島」に来られておりますので、奄美市長に提言するんでしょけれども、“奄美の観光”と表現したほうがいいでしょうし、“奄美市民”とする必要があるのかなど表現に配慮があるとよいと思いました。

私がまだ奄美に来て1ヶ月弱ですが、強く感じていることがあります。奄美の皆さんは文化・伝統を守り継承することと環境を守ることを強く意識し、本当に島を大事にされているというふうにしみじみ感じます。

提言書の中で共感する部分としては提言3の“あの人に会いたい、あなただけに来てほしい”というところです。私は以前沖縄の離島をよく訪れており、**そのコミュニティがすごく楽しくて、そこで知り合った仲間とまた会いたいということで訪問しておりましたので非常に共感しました。**

それと、変わっていく部分と変わってはいけない部分があるかと思いますが、**これだけ皆さんが大事にされている島が一過性の観光客によって守るべき部分が変わってしまうことはあってはならないと思います。**こう違う意味でこの島の価値を分かる人に来てもらえるルール作りができればと思いました。その中でも、学生をはじめとする現地の方の学びの機会と書いてありますが、来訪者の学びの機会も創出し、子供だけでなく大人の修学旅行という学びの場があっても楽しいと思いました。



近藤さん
(民間企業)



朝木さん
(市議会)

思い返せば最初の自己紹介でなんか八月踊りでも踊ったなど。**このメンバーでしっかり情報共有ができたことが一番よかった**と思います。市議会に持ち帰り皆さんと議論したいところもいっぱい出てきましたので実践していきたいと思います。なかなかこの**普段のシマツチュの生活を文字に起こす**ということが今までなかったなと思いながら拝見しますと、本当に素晴らしい資料だと思います。貴重なものとして活用させていただきます。

この度は誠にありがとうございました。今回の議論の中では、**世界自然遺産、来訪者、人、観光事業者、など個別の関係するものに繋がりを持たせることの重要性**について提言がまとめられているものと思います。これらの**提言**というのは本市行政だけでなく、関係する皆様方に関わっていただき**実践していくこと**によってさらに満足度が高まると考えます。我々行政はこの提言を受けた後、様々な個別の施策を展開してまいりたいと考えておりますので、また皆様の引き続きのお力添えをよろしくお願いいたします。



信島さん
(行政)



山田さん
(住用代表)

世界遺産になりましてどんな効果があったのか。私は**世界遺産とは世界の人々が集い、文化の交流をする場所**だと思います。金儲けの手段と考える人もいます。住用町には10人ほどガイドがおります。みんな内地の人です。地元の方はエコツアーガイドの資格を取り案内する意欲がないのです。**世界遺産というものは、そこに住んでいる方々がもっと意識と知識を持ち、伝えようとしないと意味がありません。**区長会で聞きましたが、ナイトツアーは1人の料金が約7,000円と高額なのだそうですが、住用には一銭も落ちません。**世界遺産を生かした何かに地元の方が奮起すれば世界遺産になってよかったなど感じられると思いますが今はその状況にありません。**なんで世界遺産になったのだろうか。私は前回「世界遺産になったら胸を張って堂々と歩けるようになった」ということを申しました。世界の仲間入りをしたぞという雰囲気を作ってもらいたいと思います。

今、観光客はホテルから世界遺産地域へ直行しています。集落と観光客との交流の場を持ってもらいたいですね。せっかくお越しくださったのですから、難しいことはと思いますが、交流の場を作っていただきたいです。そして世界遺産に関わる人材を育成する場を作ってほしい。ただ世界遺産だけを見るだけでは世界遺産の本質に触れたことにはなりませんので、人と人との交流の場を作っていただきたいです。そのためにもこの提言内容を進めるといいと思います。

提言書の文言の中で、ここ修正箇所について。(現状と課題)の3段目の「新たな価値」は「奄美ならではの」「独自の」「独特の」の価値という言葉がおそらく適しているんじゃないかと思いましたのでご確認ください。

山田さんの話を聞いて思ったことをお話しします。実は昨日出席したとある会合で、「世界自然遺産って何なのでしょう」と言うと、ちょっと悲痛な声を聞きました。これはやはり**住民の方が世界自然遺産について一緒に考える場が少なくなっているのではないかと思います。**登録から3年を超え来年5周年を迎えますので、**住民の方が世界自然遺産とは何なのだろうかということ**を今一度考え、話し合う場がもっとあればいいと思いました。この回も話し合う機会があと1回ぐらい多かったらよかったかなと思っております。



山下さん
(観光協会)



岩浅先生

この素晴らしいまさに公民の枠組みをいかに財産として活用していくのかという次の展開が非常に気になるところです。市だけでできることは限られていますので、今日の議論にありますように「人」に着目して、集落への展開など奄美の皆さんでいかに一緒になって政策展開を図るのか大いに期待しています。

議論を踏まえて1つ提案すると、「好循環」というキーワードもいいのかと思いました。また、用語について“安売り”などの表現の話がありましたが、私自身は変えたいのでいろんな講演の場では強めに言っています。もちろん柔らかい表現に変えていただければいいと思います。私は“プロダクトアウト”と“マーケットイン”の両方大事っていう立場でいます。まさに宝を地域の方と外の方が一緒になって再発見していくプロセスそのものが、今後の政策の本題になってくるのかなというふうに思います。

あと、細かい用語についてですが1番最後の彼のところに「今後の世界自然遺産の目的とした観光政策」とありますが、これは最初のタイトルと合わせて「世界自然遺産を活用した観光政策」でいいかなと思います。世界遺産そのものは観光政策目的にしておらず、遺産を保護して次世代に継承するというのが目的になります。観光は条約の対象外ではありますが、それをいかに活かして地域創生につなげていくかというのは当然大事な視点ですから、そこだけ少し直した方がいいかと思います。

また、先ほど久留さんがおっしゃっていた内容に非常に共感しています。柳宗悦は民芸という言葉を作り出した方ですが、彼は沖縄に非常に目を向けていて、彼が非常に感動したのは「日常がもう全部宝だ。その宝がその博物館の中にしまわれるのではなくて、まさにこの日常の暮らしに根付いている」とおっしゃっていて、これはまさに琉球弧と呼ばれる奄美を含めてそうだと思います。私も沖縄はもちろん好きですが奄美も非常に好きで、やはり日本の本土が失ってしまったものがまだ暮らしの中で息づいて、そこがすごい価値だと思っていますので、そういったところを人が行って初めてわかるっていうことで、北アルプスのような山とか縄文杉みたいなわかりやすさみたいなのはちょっと違った形で、逆に人がいるからこそのおもてなしの部分もあるし、非常にガイドさんが重要でありガイドさんいないと十分に体感できないと思いますので、まさに人に着目して提言書をまとめていけたらいいのかなと思いました。

●座長を務めてくださいました馬場先生から



馬場先生

3回にわたり皆様と一緒に考えさせていただきました。私のほうが教えていただくことのほうがたくさんあったというのが正直な感想です。コアメンバーの皆さまによってたくさんの意見が出され、それを事務局が資料にまとめるという、まさに良い形での公民連携の会議であったなと感じています。他の自治体ではあまり見られないような活発な議論や事務局の深い関わり合いなど、毎回いい意味で驚かされることでした。拙いまとめではありましたが、皆さまご協力いただきありがとうございました。

●そして安田市長へ提言書を手交しました。



↑詳細は別添の提言書をご確認ください！

「世界自然遺産を目的とした来訪者の満足度向上」のために世界自然遺産の保全と活用の観点から奄美の観光を高付加価値化するにはどうすればよいか、という大変難しい問いに挑んだ本公民連携会議。

これに対し、これ以上ないコアメンバーが参集し、座長の馬場先生のお導きのもと、明るく自由な雰囲気のもと活発な議論が繰り広げられ、素晴らしい提言へとたどり着くことができました。馬場先生、コアメンバーの皆さん、アドバイザーを務めてくださった岩浅先生に心から感謝申し上げます。

ここがゴールではなく、まさにここが施策展開のスタートとなります。

今後も引き続き皆さんのご協力をいただけると幸いです。ありがとうございます！！



Copyright (C) Amami City All Rights Reserved.